

キャリア・パスポート（例示資料）
高 等 学 校
（指導者用）

高校生のみなさんへ

「キャリア」の意味や、高校生活でさらに伸ばしてほしい能力（基礎的・汎用的能力）、「キャリア・パスポート」のねらいを端的に示すことで、教職員、生徒、あるいは保護者と共通認識をもつ。

人は、他者や社会のとののかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きています。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものです。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもありますが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を積み重ねながら取り組んでいます。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものです。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところです。

これからのますます変化の激しい社会の中で、主体的に自らの可能性を発揮し、よりよい社会や世界と幸福な人生の創り手となっていくために、みなさんには、キャリア形成の視点から、以下の能力をさらに伸ばしていくことが求められています。

《高校生活でさらに伸ばしてほしい能力》

【人間関係形成・社会形成能力】 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力 《例》 <ul style="list-style-type: none">・友達や家の人の意見を聞くとき、相手の立場を考慮して、その人の考えや気持ちを受け止めようとする。・自分の考えや気持ちを整理し、相手が理解しやすいよう工夫して、伝えようとする。・人と何かをするとき、自分がどのような役割や仕事を果たすべきか考え、分担しながら、力を合わせて行動しようとする。	【自己理解・自己管理能力】 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会と相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力 《例》 <ul style="list-style-type: none">・自分を振り返り、長所や短所を把握して、良いところを伸ばし、悪いところを克服しようとする。・自分がすべきことがある時に、喜怒哀楽の感情に流されず行動を適切に律し、それに取り組もうとする。・不得意なことでも、自ら進んで、取り組もうとする。
【課題対応能力】 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる能力 《例》 <ul style="list-style-type: none">・調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を収集し、信ぴょう性が高く、かつ、必要な情報を取捨選択しながら活用できる。・何か問題が起こった時、次に同じような問題が起こらないようにするために、原因を調べ、課題を発見し、解決のための工夫ができる。・何かをする時、見通しをもって計画し、評価・改善を加えながら行動ができる。	【キャリアプランニング能力】 「働くこと」を担う意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力 《例》 <ul style="list-style-type: none">・学ぶことや働くことの意義について考えたり、様々な働き方や生き方があることを理解したり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。・自らの将来について具体的な目標をたて、社会の現実を視野におさめながら、その実現のための方法について考えている。・将来の目標の実現に向けて具体的な行動を起こしたり、それを振り返って改善したりする。

みなさんには、授業や学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、これらの能力を自ら成長させることを意識してほしいと思います。

そして、この「キャリア・パスポート」で、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びの履歴を積み重ねていくことが、みなさんの今後の人生を創っていくための「道しるべ」になることを願っています。

以下の内容を各学校で改めて整理することにより、教員の「キャリア教育」に対する理解促進や、「キャリア・パスポート」の取組に見通しを持たせることにつなげる。

学校からのメッセージとして、以下のような項目を想定しているが、項目の順番や内容については必ずしもこの通りでなくともよい。

〇〇高等学校のみなさんへ

自校の生徒に分かりやすい言葉・表現で整理することが重要である。

〇〇高等学校で卒業までに身につけてほしい力とは

地域や学校、生徒の実態や特性等を考慮した学校の教育目標を踏まえ、〇〇高校の生徒として、卒業までに具体的にどのような力を身につけてほしいのか（育成したいのか）を明確に示すことで、〇〇高校の生徒として、何を意識して学校生活を送ることが大切なのかを、生徒、教職員、保護者等で共通意識をもつ。

既存の学校経営計画やカリキュラムペーパーなどの文言を、そのまま活用することも考えられる。

キャリア・パスポートを作成するねらい・期待すること

生徒の「何のために作成するのか」という疑問に答える。

例)

- ・学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立てること
- ・学んだことを振り返ること（様々な活動を「やりっぱなし」で終わらせない）
→新たな学習や生活への意欲につなげること
- 将来の生き方を考えること

また、学習指導要領上のねらいの他に、各校独自のねらいも考えられる。

生徒の「作成することでどのようなメリットがあるのか」という疑問に答える。

例)

- ・生徒にとっては自己理解、教員にとっては生徒理解を深めるためのものとなる
- ・就職、進学の際に、これまでの自分自身を振り返り、将来を考えるのにも役立つ

生徒たちへのメッセージ

このページ全体が生徒へのメッセージではあるが、例えば、「高校生活の中でたくさん失敗をしてほしい。失敗から学ぶことも多くある。」といった、上記以外に自校の生徒に伝えるべき内容を書き込むことが考えられる。

このシートの内容を基本としながら、さらに各学年において身につけてほしい力等を段階的に整理したうえで、各学年の生徒たちに個別にメッセージを送ることも考えられる。

〇〇年 4 月

〇〇高等学校 校長

▲▲ ▲▲

学期を見通し、振り返る

各学年（卒業年度を除く）の各学期（二学期制含む）について統一の様式を想定。

○年 ○学期

記入日 年 月 日

○今学期の間に、特に心がけて取り組もう（自分なりに努力してみよう）と思っていることをまとめよう。

<p>（授業） 何に取り組むか</p> <p>全ての教科を網羅的に書くものではない。どの教科を書くかで志向が表れる。</p>	<p>どのように取り組むか</p>
<p>（学校行事）</p> <p>事前指導において、特に今学期に何があるのかを生徒に周知し、イメージを持たせる必要がある。</p>	
<p>（部活動 校外活動 家庭 資格等）</p> <p>生徒の経験や気づきに対する評価であってはならない。教師からのメッセージは、あくまでも、生徒の「心の動き」を生み出すための一つのきっかけである。</p>	<p>あえて「保護者からのメッセージ」を入れないことで、中学校段階との違いを打ち出している。</p>
<p>先生からのメッセージ</p> <p>教師が生徒の反応を予想しながら言葉をかけることに、「教師が対話的に関わる」ことの意義がある。</p>	<p>先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと</p> <p>生徒の学びや気づきの深まり・広がりを記入する欄として位置付けている。</p>
<p>ホーム担任以外、例えば部活動顧問などからのメッセージも考えられる。</p>	

記入日 年 月 日

○今学期を振り返って、自分なりに取り組んできたことや、よかったと思うことをまとめよう。

<p>（授業） 何に取り組んできたか</p>	<p>どのような点がよかったと思うか</p>
<p>（学校行事）</p>	
<p>（部活動 校外活動 家庭 資格等）</p>	
<p>先生からのメッセージ</p>	<p>先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと</p>

一年を見通し、振り返る

各学年（卒業年度を除く）について統一の様式を想定。

〇年

記入日 年 月 日

○1年のはじめに、自分のどんな力を伸ばしたいかを考えよう。
（表紙裏の「高校生のみなさんへ」の中にある「高校生活でさらに伸ばしてほしい能力」等を参考にしてください。）

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<p>考える際には、「高校生のみなさんへ」や「〇〇高等学校のみなさんへ」を見返し、基礎的・汎用的能力や各学校が整理した身に付けさせたい力を意識しながら、具体的に設定することが重要である。</p>		<p>4つすべてについて、伸ばしたい力を設定することが難しい場合も想定されるため、生徒の実態等に応じて、各校で整理した身に付けさせたい力なども参考に、特に意識して伸ばしたい力をしぼりこむことも考えられる。</p>	
<理由>	<理由>	<理由>	
<p>なぜその力を伸ばすことにこだわるのかを今一度振り返り、整理することが大切である。</p>			

○1年間を振り返って、一番心に残っていることをまとめよう。 記入日 年 月 日

(授業)	なにが	どうして(理由)
(行事)		
(部活等)		

○1年間を振り返って、自分自身の成長をまとめよう。

成長できたところ	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
成長したいところ			<p>目標(伸ばしたい力)の設定と同様の理由から、生徒の実態等に応じて、しぼりこんだ意識して伸ばしたい力について振り返りを行うことも考えられる。</p>	

○将来の自分自身を想像しよう。

1年後の私	どんなふうになっていたか	そのために今から何をするか
30歳の私		

()からのメッセージ	友人、保護者、部活動の顧問等、メッセージをもらう相手を生徒が主体的に選ぶという工夫も考えられる。	クラス内の人間関係が上手くいっていることが前提になるが、友人からのコメントも大きな効果が期待できる。
先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと	
<p>コメントはもらわなくとも、面談等で本紙を保護者に見てもらうことで、教員・保護者が共通の生徒理解を図るといった活用も考えられる。</p>		

小学校から高等学校までを振り返る

進路指導での活用も考慮し、作成時期は卒業年次の7月ごろを想定。

○自分自身のこれまでを振り返って、「足跡」をまとめよう。

記入日 年 月 日

(小学校)	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか
(中学校)	小・中学校で自ら作成した「キャリア・パスポート」も参考にしながら、現在の自分が改めてこれまでの自分の「足跡」を整理し直すことで、取り上げる事柄は小・中学校と同じであっても、より深い振り返りができていることを実感してほしい。	本シートは、就職・進学に向けた志願理由書等の作成に当たってのラフスケッチ的な位置づけとして活用できる。
(高等学校)		高校生活でさらに伸ばしてほしい能力として示した4つを手がかりに、自分の強みをより具体的に整理することにより、それらの能力が発揮できる卒業後の進路や生き方を見通していくことにつなげてほしい。

○自分自身の「現在（今）」と「将来」についてまとめよう。

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
自分のよさ・強み				
成長させたいところ				
卒業後の進路				
将来、社会にどのように貢献していきたいか				
将来、どういう生き方をしていきたいか				

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと
------------	----------------------------

卒業年度を見通し、振り返る

卒業年度については、将来の目標の実現に向けて具体的な行動を起こしたり、それを振り返って改善したりすることを特に意識した様式としている。

○ 1年後の自分を想像しよう。

記入日 年 月 日

どんなふうになっていたいのか（目指す進路や目標）

次の年度（高等学校の次の段階）の4月を見据えたうえで、年間の取組を計画する。

○ 1年後に向けて、いつ、何に取り組むかを考えよう。

4月	7月	9月	11月	1月	3月	4月
	小中高を振り返るシートの作成	就職試験	専門学校入学試験	センター試験（大学入学共通テスト）	卒業	

社会に出て仕事を行う上でも、このように目標を設定し、目標達成のための手立てを検討のうえ実行し、振り返りを行うことが重要であることを意識させることが大切である。

取組の記載はあくまで例示であり、例示以外の取組も記載する。

記入日 年 月 日		
具体的に何に取り組むか	どのように取り組むか	進捗状況確認（9月頃）
	<p>年度の途中に一度、設定した目標や取組の状況を確認し、必要に応じて目標や取組の修正を行う。</p> <p>なお、修正が必要な場合には、余白部分に後から自分自身が見返しても分かるように記載すること。</p>	

○ 1年間の振り返りをまとめよう。

記入日 年 月 日

何に取り組んできたか	どのような点がよかったと思うか（成長できたと思うか）

○ 卒業後の自分について、どんな自分になりたいか（将来どんな生き方をしていきたいか）を考えよう。

--

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと
------------	----------------------------

※学校に既存の様式があれば、そちらを活用してもらってもかまいません。

他の学校行事とは異なり、働くことに関する活動は別様式を設定。

就業体験・インターンシップについて（働くことに関して）

【事前】

記入日 年 月 日

「働くこと」についての今の考え（「働く」ということに、どのようなイメージや考えをもっているか）

受入先

体験先選定の理由

どうしてその職場に行くのか、その理由を自分自身の言葉で整理することが重要である。

就業体験・インターンシップを通じて、どんなことを得たいのか

就業体験・インターンシップを通してなりたい自分のイメージ（どう成長したいのか）

【事後】

記入日 年 月 日

就業体験・インターンシップを通して学んだこと（気づいたこと、よかったこと、反省したことなど）

受入先から自分の将来に向けてどのようなアドバイスをもらったか

「働くこと」についての今の考え（体験を通してどのように考えが変わったか・変わらなかったか）

事前・事後に「働くこと」そのものに関する同じ問いに向き合ってもらうことで、生徒自身が自己の変容に気づいてほしい。

今、考えている自分の進路（〇〇に進学・〇〇業に就職・迷っている）とその理由

辛口のコメントでも、指摘は本人にとっては早急に改善が必要な点であり、貴重なものとなる。

「迷っている」のは、体験が揺さぶりをかけている証拠である。何をどう迷っているのか、心の迷いを整理することが大切である。

受入先からのアドバイス

学校の外の方からの目線で、良いことだけでなく、改善すべき点についてもコメントをもらうことで、生徒自身が今後の自己の在り方を考えるきっかけにしてほしい。

先生からのメッセージ

受入先からのアドバイス・先生からのメッセージを読んで考えたこと

※学校に既存の様式があれば、そちらを活用してもらってもかまいません。

体育祭や文化祭、修学旅行、ボランティア活動等、生徒の伸ばしたい力の育成に重要な行事等を整理する様式として設定。

〇〇について（学校行事等）	〇年
---------------	----

【事前】	記入日	年	月	日
〇〇で特に心がけて取り組もう（自分なりに努力してみよう）と思っていること				
そう思った理由				
そのために事前に準備すること				

【事後】	記入日	年	月	日
自分なりに取り組めたこと、よかったと思うこと				
今回の体験・経験で最も心に残っていること				
<その理由>				
自分が成長したと思うところ	今回の体験・経験を踏まえて、今後に生かしていきたいところ			

()からのメッセージ		例えば、ボランティア活動などについては、活動先の方からコメントをもらうことも考えられる。また、学校行事では、特に共に活動を行った友人からメッセージをもらうことが、生徒本人にとって大きな効果を与えることも期待できる。
先生からのメッセージ	メッセージを読んで気づいたこと、考えたこと	

※学校に既存の様式があれば、そちらを活用してもらってもかまいません。

他の授業や学校行事とは別に、「総合的な学習（探究）の時間」の取組について、見通しを持たせ、振り返りを行う様式として設定。

「総合的な学習（探究）の時間」（課題研究等）について

○年

ここでの「課題研究等」とは、専門学科において、「総合的な学習（探究）の時間」の代替となるものを指しています。

【事前】

記入日 年 月 日

「探究」テーマ（「課題研究」テーマ）

テーマ選定の理由

取組を通じて特にどんな力を伸ばしたいか

<理由>

特に、事後にまとめた内容については、大学等に提出する活動報告書の内容にも反映できる。

【事後】

記入日 年 月 日

探究した内容の概要（取組の流れや取組を通じて新たにわかったこと など）

取組の過程で感じたこと・考えたこと（うまくいったことやそのときの気持ち、失敗したことやそこから学んだこと など）

事前に掲げた目標（どんな力を伸ばしたいか）に対して、事後に掲げた目標についてどうだったのかをしっかりと振り返ることが大切である。

取組を通じてどんな力が伸ばせたか（成長したところ）

探究活動の結果、新たに生まれた疑問や探究テーマ等

調べたこと、活動したことをまとめて終わりではなく、「探究すること」が新たな問いの発見につながることを意識してほしい。

先生からのメッセージ

メッセージを読んで気づいたこと、考えたこと

「キャリア・パスポート」を活用した授業例①

- (1) 高等学校 特別活動
- (2) 1 学年 ホームルーム活動 (3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」
ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解
- (3) 題材「これまでの「キャリア・パスポート」を他者に紹介し、自分自身の成長を再認識する」
▶クラスメイトとの関わりを通じて自己の将来に関する考えを深めることの大切さを理解し、自己を見つめ、これまでを振り返りながら主体的に新たな学習に取り組むことができるようにする。
- (4) 事前の指導（活動）
▶クラス内の人間関係づくりを行っておく。（他者を考えや意見を受け入れる雰囲気づくり）
▶小・中学校時に作成した「キャリア・パスポート」を見返し、クラス内で紹介する内容等の準備をさせる。
- (5) 本時の学習過程

	児童生徒の活動	指導の留意事項
導入	<p>▶ねらい「これまでの「キャリア・パスポート」を他者に紹介し、自分自身の成長を再認識する」について確認</p> <p>▶これから行う活動の流れについて確認</p>	<p>▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。</p>
展開	<p>▶小・中学校時に作成した「キャリア・パスポート」をもとに、グループ内で、「これまでに自分なりに努力してきたこと」など、各自の成長や変容を話し合う。</p> <p>▶グループ内の話し合い活動の内容をワークシートにまとめる。</p> <p>▶クラスメイトコメントや、クラスメイトとの話し合いで感じたことや考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<p>▶グループ内での話し合い活動とする。</p> <p>▶時間内でグループを組み直すなど、クラス内のできるだけ多くの生徒と話し合いができる機会を確保する。</p> <p>▶振り返りを通して、自己理解や他者理解、新たな人間関係の構築につなげる。</p>
終末	<p>▶「高校生のみなさんへ」や「〇〇高等学校のみなさんへ」を読み、高等学校においてさらに伸ばしたい力を意思決定すると共に、高等学校で「キャリア・パスポート」を作成することの意義を再確認する。</p>	<p>▶高等学校において、授業やさまざまな行事等を通してどのような力を伸ばしたいかを意思決定させる。</p>

- (6) 事後の指導（活動）
▶「一年を見通し、振り返る」様式の「自分のどんな力を伸ばしたいか」や、「学期を見通し、振り返る」様式の「特に心がけて取り組もうと思っているところ」についてまとめる。
- (7) 実施時期について
▶入学後、クラス内の人間関係が一定できた4月中旬以降を想定しているが、4月に「仲間作り合宿」などの取組がある学校については、合宿中のプログラムの1つとして行うことも考えられる。

「キャリア・パスポート」を活用した授業例②

- (1) 高等学校 特別活動
- (2) 2 学年 ホームルーム活動 (3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」
エ 主体的な進路の選択決定と将来設計
- (3) 題材「自分を知り、進路を見直す」
▶自分自身の興味・関心などの個性を理解した上で、自分の将来の生き方や生活について見通しをもち、進路選択を行う。
- (4) 事前の指導（活動）
▶これまで作成した「キャリア・パスポート」をもとに、今学期の自分自身の成長や今後の方向性（自分自身の進路や進路実現に向けた具体的な手立てを含む）等を自己評価する。
- (5) 本時の学習過程

	児童生徒の活動	指導の留意事項
導入	<p>▶ねらい「自分を知り、進路を見直す」についての確認 （これまでの「キャリア・パスポート」を整理し、自分の興味関心等の個性を理解し、自分の将来の生き方や生活について見通しをもち、進路選択を行う。）</p> <p>▶この活動をもとに三者面談を行うことについての確認</p>	<p>▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。</p>
展開	<p>▶これまでに作成した「キャリア・パスポート」（「学期を見通し、振り返る」「学校行事」等の様式）をもとにグループで話し合い、相互評価を行うとともに、生徒自身が行うプレゼンテーション（「私のプレゼンテーション」）の原稿を作成する。</p> <p>▶作業途中で各 2 分間のプレゼンテーションの練習をする。 （グループで話し合い、相互評価をくり返す。）</p>	<p>▶取組がうまく進んでいない生徒に対して、教員が個別の支援を行う。</p> <p>▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。</p>
終末	<p>▶（これまでの「私のプレゼンテーション」の作成や話し合い活動を通じて）二者面談や三者面談という進路選択の場面向けた決意と具体的な進路への目標設定を意思決定する。</p>	

- (6) 事後の指導（活動）
▶【「生徒が話す三者面談」】「キャリア・パスポート」を活用してまとめた今学期の自分自身の成長や今後の方向性（自分自身の進路や進路実現に向けた具体的な手立てを含む）等について、面談の中でクラス担任、保護者にプレゼンテーションを行う。
▶面談中に感じたことや考えたことを踏まえ、次の「学期を見通し、振り返る」様式を作成する。
- (7) 実施時期
7 月中での実施を想定している。（2 年次に限らず毎学年実施することもある。）
また、上記の授業例をもとに、次のような取組も考えられる。
【「生徒が話す二者面談」】
作成した「キャリア・パスポート」をもとに、自分なりに取り組んできたことやこれから取り組もうと考えていることについて、クラス担任に対して生徒が自分の言葉でプレゼンテーションを行う。

「キャリア・パスポート」を活用した授業例③

- (1) 高等学校 特別活動
- (2) 3 (4) 学年 ホームルーム活動 (3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」
エ 主体的な進路の選択決定と将来設計
- (3) 題材「小学校から高等学校までを振り返り、自分自身の今と将来を考える」
▶これまでや現在の自分を振り返り、自己の興味・関心や適性を把握するとともに、将来の生活における職業人、家庭人、社会の形成者などとしての活動等について考え、人生や将来の生活を具体的に描く。
- (4) 事前の指導（活動）
▶小・中学校、高等学校においてこれまでに作成した「キャリア・パスポート」を見返し、改めてこれまでの自分の「足跡」を整理し直す準備をさせる。
▶社会への貢献の仕方や将来の生き方のヒントとなるような参考資料（新聞記事や書籍等）を事前に各自で収集させる。
- (5) 本時の学習過程

	児童生徒の活動	指導の留意事項
導入	<p>▶ねらい「小学校から高等学校までを振り返り、自分自身の今と将来を考える」について確認</p> <p>▶これから行う活動の流れについて指示</p>	<p>▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。</p>
展開	<p>▶（小・）中学校で作成した「18歳の私へ」様式を読み返し、感じたことや考えたことを個人でまとめる。</p> <p>▶小・中学校、高等学校において作成した「キャリア・パスポート」をもとに、「小学校から高等学校までを振り返る」様式を活用し、グループで話し合う。</p> <p>▶事前に各自で収集してきた社会への貢献の仕方や将来の生き方のヒントとなるような参考資料も活用しながら、自分自身の将来についてグループで話し合う。</p>	<p>▶自己実現につながる意思決定としての取組であることを意識させる。</p>
終末	<p>▶グループ内における話し合い活動で感じたことや考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<p>▶振り返りを通して、さらなる自己理解や他者理解につなげる。</p>

- (6) 事後の指導（活動）
▶作成した「小学校から高等学校までを振り返る」様式の内容をブラッシュアップし、進学・就職に向けた志願理由書等を作成する。
- (7) 実施時期について
卒業年次の7月ごろを想定している。